教育研究業績書

2025年05月07日

所属： 心理学科　　資格： 教授　　氏名： 佐藤　淳一

研究分野	研究内容のキーワード
臨床心理学，力動的心理療法	臨床心理面接、臨床心理査定、心理学的タイプなど
学位	最終学歴
博士（文学），修士（臨床心理学）	甲南大学大学院人文科学研究科人間科学専攻博士後期課程修了

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例		
1.臨床教育学研究科博士後期課程委員	2021年4月～現在	臨床教育学研究科博士後期課程において，2017年度～2020年度まで外部審査委員として，2021年度～現在まで博士後期課程委員として，博士論文の論文審査（副査）を担当している。
2.臨床心理学特論Ⅰ→臨床心理面接特論→心理支援に関する理論と実践Ⅰ（大学院開講科目）	2014年4月～現在	主として力動的な心理療法・カウンセリングについての基本的理解を身につけるため，『心理面接の教科書―フロイト，ユングの知恵と技から学ぶ』を教科書として，学生が主体となって発表し，理解や疑問点などの討論を行う。教員は臨床実践との関わりを補足，解説する。たんなる知識の習得に終わらず，自身の体験を臨床的に捉え，考えたり感じたりできるよう工夫している。
3.臨床心理査定特論→心理的アセスメントⅡ（大学院開講科目）	2014年4月～現在	臨床心理査定の理論と実際についての基本的な理解を身につけるため，各心理検査（人格検査）を適切を実施し，結果の解釈ができるようになるよう，受講生自ら受検者となって心理検査を実施し，レポートを作成・提出する。教員はレポートを添削することで，学生の理解の定着をはかる。授業では担当者が各検査の理論的背景や解釈仮説を中心に発表し，討論を行う。また各領域の事例報告を通して，心理査定の実際についても検討する。
4.カウンセリング心理学→心理検査法・心理的アセスメント（概論）→心理学的支援法（学部開講科目）	2014年4月～現在	講義の理解を深め，意欲・関心を高める取り組みとして，コメント用紙を配布して，受講する学生の疑問や感想に答えたり，授業アンケートを実施して学生の意識を把握し，それを参考に講義内容の調整を適宜図るように心がけている。また，本質部分を消化・吸収しやすいようなレジュメを作成・配布すること，視聴覚素材を用いること，種々のワーク等を適宜取り入れることで，講義の内容を補足するように工夫している。
5.臨床心理基礎実習Ⅰ（大学院開講科目）	2008年4月～2022年3月	大学院開講科目の臨床心理基礎実習Ⅰを主担当し、修士一年生全員を対象に、臨床心理面接の基本的態度と技術の習得をねらった講義ならびに演習を行った。具体的には，クライエント中心療法を中心とする理論についての講義，ならびにセラピスト役とクライエント役を通したロールプレイ形式による臨床心理面接（ロールプレイＡ～Ｄ，インテーク面接等）の演習を行った。それらの逐語録レポートの課題提出を求めて，個別に添削指導を行った。
6.大学院修士課程の修士論文の作成指導	2008年4月～現在	2008年4月～2014年3月，上越教育大学学校教育研究科臨床心理学専攻修士課程院生の修士論文作成指導を担当した。2014年4月～現在まで，本学文学研究科臨床心理学専攻修士課程の修士論文作成指導（副査：主たる研究指導）計14名を行った。
7.視聴覚素材を用いた心理面接や心理査定の講義	2008年4月～現在	心理面接や心理査定に関わる視聴覚素材を積極的に用いて、実際の心理臨床について適切にわかりやすく伝えている。
8.双方向型の授業	2008年4月～現在	講義の最後に，質問コメント用紙を配布し，講義中に新たに学んだ点や疑問点・質問点などを記入させ，回収する。次回の授業の冒頭で，各自の疑問点・質問点に答えて適切な内容の理解を図るとともに、理解の到

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例		
		達度や学習上の興味に応じて，講義の内容および方法を適宜調整，修正するようにしている。
2 作成した教科書、教材		
1.箱庭療法学モノグラフ第21巻『ユングのタイプ論に関する研究―「こころの羅針盤」としての現代的意義』	2023年10月	C.G.ユングのタイプ論を文献研究や理論論的論考，量的研究，質的研究など実証的研究から詳細に検討し，その現代的な意義を明らかにしたにモノグラフ。従来の静的で固定化したイメージから解き放ちその発展可能性を探ろうとする。一般社団法人日本箱庭療法学会2023年度「木村晴子記念基金」による学術論文出版助成を受け，箱庭療法学モノグラフ第21巻として出版。
2.【翻訳】J・ノックス著　「患者のために感じること」と「患者とともに感じること」：間主観性および共感性における発達的，神経科学的視点」武庫川女子大学発達臨床心理学研究所紀要，20，25-44.	2019年3月	英国Jung派発達学派の統合的な心理療法の文献、Konx,J（2013）‘Feeling for’ and ‘feeling with’: developmental and neuroscientific perspectives on intersubjectivity and empathyの邦訳。「臨床心理面接特論」の補助教材
3.【翻訳】A・M・ジョンソン，E・I・ファルスタイン，S・スズレック & M・スヴェンセン著「学校恐怖症」　学校教育センター年報（武庫川女子大学学校教育センター），3，193-202	2018年2月	不登校症例の古典的論文，Johnson, A. M., Falstein, E. I., Szurek, S. A. & Svendsen, M.（1942）School Phobia, American Journal of Orthopsychiatry, 11, 702-711.の邦訳。「教育分野における理論と支援」の参考教材
4.【翻訳】A・ストー著　心理面接の教科書－フロイト，ユングの知恵と技から学ぶ（創元社）	2015年2月	Anthony Storr（1990）The Art of Psychotherapy second edition. New York/Routledgeの邦訳。英国の著名な精神科医・精神療法家のアンソニー・ストーによる，力動的な心理療法の理論と実際について解説した書。カウンセリング・心理面接に関する講義の教材
5.臨床心理基礎実習Ｉの手引き	2014年2月	大学院開講科目「臨床心理基礎実習Ｉ」のために作成した手引き。セラピストの基本的態度と技術を習得するため，クライエント中心療法の理論に基づいた，セラピスト役とクライエント役のロールプレイ形式による心理面接（ロールプレイＡ～Ｄ，インテーク面接等）の演習が、マニュアル形式で行えるようになっている。
6.心理面接例のDVD素材	2008年8月	上記の臨床心理基礎実習Ｉの教材として，セラピスト役とクライエント役のロールプレイ形式による心理面接の実演例のDVDを作成した。
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
1.武庫川女子大学発達臨床心理学研究所総合心理相談室研究員→武庫川女子大学心理・社会福祉学部心理学科発達・臨床心理センター	2014年4月～現在	総合心理相談室における院生担当ケースのスーパーヴィジョン，来談者への心理カウンセリングやマネジメント。発達・臨床心理センター紀要編集委員。 発達達臨床学研究所／発達達臨床センター主催の公開講座の司会（2014年度，2022年度，2023年度），シンポジスト（2024年度）。
4 その他		
1.臨床実践に活かすロールシャッハ・テスト講座	2024年11月30日～2025年2月22日	2024年度武庫川女子大学リカレント教育講座として，臨床心理学専攻修了生ならびに心理職に向けたロールシャッハ・テスト講座（主にクロッパー法／片口法の解説と事例検討）を3回シリーズで行った。
2.武庫川女子大学教職員免許状更新講習講師	2018年8月1日～2021年8月3日	教職員免許状更新講習の講師として，選択必修「教育相談」を担当し,学校教育相談における不登校およびいじめの理解と対応についての講義，カウンセリングの演習，ならびに試験を行った。
3.武庫川女子大学高大連携事業（附属高2年生対象の出張講義）	2016年2月3日	武庫川女子大学附属高2年生対象の出張講義の担当教員として，「カウンセリングにおける聞く態度と技術」の講義と簡単な演習を行った。
4.平成21年度、25年度上越教育大学教職員免許状更新講習講師	2015年8月8日	教職員免許状更新講習の講師として，「最新の教育事情（上越A）」の「子どもの変化についての理解」を担当し，「子どもの発達についての課題」と「子どもの生活の変化を踏まえた指導」について講義ならびに試験を行った。
5.教員採用試験問題案	2011年	教員採用試験問題案(教育心理関連)

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
4 その他		
6.新潟県立国際情報高校・高大連携事業（臨床心理学）講師	2010年7月16日17日	新潟県立国際情報高校における高大連携事業（臨床心理学）の講師として，臨床心理学概論，臨床心理査定演習，臨床心理面接演習からなる授業を4コマ行った。
7.授業外における学生支援	2008年～現在	大学および短大初年次の担任業務、ならびに勉学・進路等への相談対応。学部生への卒業論文の作成指導、大学院生への心理相談室での担当ケースの臨床指導，修士論文の作成指導。高大連携事業における附属校生への導入教育。

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
1 資格、免許		
1.京都精神分析心理療法研究所認定　精神分析的心理療法家	2021年8月	一般社団法人京都精神分析心理療法研究所（KIPP）認定
2.公認心理師	2019年2月5日	厚労省・文科省
3.認定心理士	2013年2月	公益財団法人日本心理学会
4.臨床心理士	2003年4月1日	財団法人日本臨床心理士資格認定協会
2 特許等		
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
1.公認心理師実習演習担当教員養成講習会受講	2024年12月7日～12月23日	令和6年度厚生労働省事業「公認心理師実習演習担当教員養成講習会」を受講し，修了が認められた。
2.ストレスチェック実施者研修会	2023年12月17日	公益財団法人日本公認心理師協会主催の2023年度第2回ストレスチェック実施者研修会の研修課程を修了した。
3.私設相談領域の心理臨床活動	2017年2月～2022年3月	公益財団法人相談機関において来談者への心理カウンセリング等に従事した。
4.医療領域における心理臨床活動	2015年7月～2025年3月	精神科・心療内科クリニックにおいて外来患者への心理検査，心理カウンセリングに従事した。
5.私設相談領域における心理臨床活動	2014年10月～現在	一般社団法人研究所心理オフィスにおいて来談者への心理カウンセリング，ならびに心理臨床家へのスーパーヴィジョンを行っている。
4 その他		
1.武庫川女子大学学生相談センター長	2025年4月～現在	武庫川女子大学学生相談センター長を務めている。
2.芦屋市企画室・地域連携事業	2023年3月～現在	芦屋市企画室と連携し、個人特性と危機管理に関する調査研究を行っている。
3.武庫川女子大学文学研究科臨床心理学専攻専攻長	2022年4月1日～2025年3月31日	武庫川女子大学文学研究科臨床心理学専攻の専攻長を務めた。
4.平成27年度不登校生・高校中退者のための学校相談会講演会講師	2016年1月30日	通信制高校・サポート校相談会事務局主催「不登校生・高校中退者のための学校相談会」の講師として，一般を対象とした不登校の心理的理解と援助について講義を行った（兵庫私学会館）
5.平成27年度兵庫県教育委員会教職員初任者研修会講師	2015年10月27日	小・中学校教職員初任者研修の講師として，「教育相談～カウンセリング技法実習～」を題目に，児童生徒へのカウンセリングについての講義と演習を行った（但馬地区：兵庫県立但馬長寿の郷）。
6.武庫川女子大学教学局の各種委員	2015年4月2025年3月	教学局委員として情報処理教育委員を1年、共通教育委員とキャリア対策委員をそれぞれ3年務めた。2020年度より学生相談センター専門委員を4年務めた。
7.武庫川女子大学のオープンキャンパス、入試関連、教育懇談会、鳴松会行事の参画	2014年4月～現在	大学のオープンキャンパス、入試業務、地域別教育懇談会（本部会場・地域会場）、鳴松会行事に参画している。
8.平成25年度新潟県十日町市立教育委員会社会性育成研修会講師	2013年10月9日	新潟県十日町市立教育委員会社会性育成研修会の講師として，不登校を中心とする児童生徒の理解と対応について解説した。
9.平成23年度新潟県上越市立中学校教職員研修講師	2011年8月8日	中学校教職員研修会の講師として，カウンセリングの基本的態度と技術について講義・演習，トラウマの心のケアについて講義を行った。
10.新潟県臨床心理士会倫理委員会委員	2011年4月～2014年3月	新潟県臨床心理士会の倫理委員会の委員を務めた。
11.平成22年度新潟県上越市立中学校教職員研修講師	2010年8月3日，9日	中学校教職員研修会の講師として，動作法やリラク

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
4 その他		
		ゼーション法などの演習，児童生徒の不登校に関する理解と対応について解説した。
12.平成21年度新潟県上越市立中学校教職員研修講師	2009年8月4日，5日	教職員研修会講師として，カウンセリングの基本的な講義とロールプレイによる演習を行った。
13.日本パーソナリティ心理学会「パーソナリティ研究」編集委員	2008年11月～2012年10月	日本パーソナリティ心理学会の学術雑誌「パーソナリティ研究」の編集委員として，投稿論文の査読審査を担当した。
14.平成20-21年度真宗大谷派高田別院カウンセリング講座講師	2008年10月17日，2009年10月22日	一般向けの「カウンセリング講座」（上手な聞き方講座）講師として，講義ならびに演習を行った。
15.平成20年度～25年度新潟県教育委員会教職12年経験者 研修（小・中・特）コース別研修（生徒指導コース）講師	2008年8月～2013年8月	教職12年経験者研修（「カウンセリングを生かした生 徒指導のコツ」）講師として，自己理解・他者理解についての講義ならびにカウンセリング演習を行った。
16.独立行政法人国立病院機構さいがた病院医療観察法病棟「倫理会議」「外部評価会議」委員	2008年4月～2014年3月	独立行政法人国立病院機構さいがた病院の医療観察法病棟における「倫理会議」ならびに「外部評価会議」の外部委員を務めた。
17.兵庫県姫路市あすなろ教室「子育て座談会」講師	2007年11月23日	小学生，中学生，高校生の子どもを持つ保護者を対象とした子育て座談会の講師を務めた。
18.平成19年度兵庫県小・中学校教職員研修会講師	2007年8月23日～12月5日	教職員研修の講師として、事例検討会、カウンセリング・マインドの講義および実習を行った。
19.平成17年度兵庫県小・中学校教職員研修会講師	2005年8月1日～9日	小・中学校教の教職員研修講師として、事例検討会、カウンセリング・マインドの講義および実習を行った。
20.平成15年度兵庫県小・中学校教職員研修会講師	2003年8月28日	小・中学校の教職員研修講師として、事例検討会、カウンセリング・マインドの講義および実習を行った。

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1 著書				
1.箱庭療法学モノグラフ第21巻『ユングのタイプ論に関する研究――「こころの羅針盤」としての現代的意義』	単	2023年10月18日	創元社	C・G・ユングのタイプ論は、パーソナリティに関する古典的な理論としてよく知られているが、特性論が主流を占める現代において、研究や臨床実践にどのように貢献できるのだろうか。本書では、ユングのタイプ論を文献研究、量的研究、質的研究、尺度開発など様々なアプローチから詳細に検討し、その現代的な意義を明らかにしていく。ユングのタイプ論を静的で固定化したイメージから解き放ち、その発展可能性を探る研究成果をまとめた学術書。一般社団法人日本箱庭療法学会2023年度木村晴子記念基金出版助成を受けた。
2 学位論文				
1.Jungのタイプ論に関する基礎的研究（博士論文）	単	2007年03月	甲南大学大学院人文科学研究科（甲第59号）	Jungのタイプ論に関する理論的，臨床的研究を展望した上で，実証的な基礎的研究を蓄積したものである。まず，これまでの心理学的タイプの測定尺度を再検討した上で，新たな心理学的タイプの測定尺度Jung Psychological Types Scale（JPTS）を作成した。そして，心理学的タイプと各種パーソナリティとの関連（Kretchmerの気質タイプ，共感性，ロールシャッハ反応，バウム作品など），学派・技法選択別にみた心理療法家の心理学的タイプの特徴を明らかにした。さらに心理学的タイプの代表者との面接調査を実施し，質的な検討も試みた。(全251p)
3 学術論文				
1.対極性と共存性を考慮に入れた心理学的タイプの両義性に関する構成概念妥当性の検討 【査読付】	単	2025年4月（早期公開）	心理学研究，96(5) https://doi.org/10.4992/jjpsy.96.24314	本研究の目的は，共存性を考慮に入れたJungの心理学的タイプ測定尺度（JPTS-C）を用いて外向と内向の間，思考と感情の間，感覚と直観の間における対極性と共存性を含む，両義性の構成概念を検討することである。JPTS-Cは，タイプ論の対極性を想定しながらも，外向と内向の間，思考と感情の間，感覚と直観の間の共存性を測定するため，回答形式を単極形式からなる7段階評定尺度の項目対とした。本結果は次の通りである。(a) JPTS-Cの両義性指標は二面性尺度の両義性指標と相関関係が得られた。(b) 外向と内向の両義性指標は曖昧さの態度における不安と負の相関が示され，感覚と直観の両義性指標は曖昧さの態度における享受および受容との間に正の相関，また二分法的信念との間に負の相関が示されたのに対し，思考と感情の両義性指標は曖昧さの態度における享受および統制との間

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
				に正の相関が示された。こうした結果から，JPTS-Cの下位尺度の両義性指標に関する構成概念妥当性が確認されたほか，両義性指標の性質は下位尺度によって異なることが示唆された。
2.公認心理師養成におけるスーパーヴィジョンシステムの構築――スーパーヴィジョン体験を振り返って――	単	2025年4月（印刷中）	武庫川女子大学 発達臨床・心理センター紀要，2	心理臨床におけるスーパーヴィジョンの定義とその役割を踏まえた上で，筆者のヴァイジーならびにヴァイザー体験を振り返り，本学で臨床心理士養成から公認心理師養成へ移行した際の，スーパーヴィジョンシステムの構築にどう活かしたのかを検討した。
3.対極性と共存性を考慮に入れた心理学的タイプの両義性に関する概念とその類型化の検討 【査読付】	単	2025年3月	武庫川女子大学研究紀要，72，44-51	対極性と共存性を考慮に入れた心理学的タイプの両義性に関する概念の整理と、心理学的タイプの両義性の類型化モデル、ならびに従来の対極性を考慮に入れた心理学的タイプの類型化との一致度について検討した。
4.スクールカウンセリングにおける不登校臨床に関する覚え書き	単	2025年2月	武庫川女子大学学生相談センター紀要，34，11-16	筆者の経験した中学校のスクールカウンセリング活動をもとに，不登校臨床の特徴を、「間接性」，「柔軟性」，「複合性」という観点から覚え書きという形で振り返った。
5.バウム作品ならびに評価者における印象評価パターンと作品の了解度との関連 【査読付】	単	2024年8月	臨床描画研究，39，121-135.	1）バウム作品の印象評価とバウム作品に対する了解度の関連，2）バウム作品および評定者における印象評価パターンとバウム作品に対する了解度との関連を検討したところ，1)「豊かさ」の印象評価は作品に対する了解度の高さと関連すること，2）「濃密さ」の印象評価パターンをもつ評価者群は他の評価者群よりも作品に対する了解度が高いこと,3）評定者クラスターパターンは，1枚目から2枚目にかけて強調されていることが明らかにされた。
6.精神分析的心理療法家養成訓練プログラムを振り返って――良質で継続的な個人心理療法を提供する	単	2024年4月	武庫川女子大学 発達臨床・心理センター紀要，第1号，37-44.	特集「臨床実践の諸相」として，筆者が2021年8月に修了した精神分析的心理療法家養成プログラムについて紹介した。良質で継続的な個人心理療法を提供する，対人関係論に基づく精神分析心理療法家養成家プログラムの概要を説明した。
7.バウムテスト2枚法における描画者の内的体験過程―インタビュー調査を通して―【査読付】	共	2024年3月	武庫川女子大学発達臨床心理学研究所紀要，25，1-12.	バウムテスト2枚法における描画過程の内的体験を明らかにするため，描画者に半構造化面接を実施して質的に検討した。描画者に描画の際に「どのようなことを感じ，体験しているのか」1枚目，2枚目ごとに質問を行い，修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチを用いた分析したところ，1）描画体験を通じ様々な内内的活動と感情体験が生じ，異なる水準で相互に影響を与え合っていること，2）バウムテスト1枚目から2枚目の間で葛藤を味わい，選択と決定を繰り返す中で，「揺れ動き」が喚起され，独自の内的体験が生じることが示唆された。共著者：藤浪　桃子・佐藤 淳一（共同研究につき本人担当部分抽出不能）
8.大学生のアイデンティティ形成に関する臨床的考察―コロナ禍を経て―	単	2024年2月	武庫川女子大学学生相談センター紀要，33，10-16.	主体としての意味や価値という文脈から捉えると，コロナ禍を経た大学生は,アイデンティティをどのように形成するのだろうか。本稿は，従来のアイデンティティの諸概念を整理した上で，自我アイデンティティを２つの水準に分け，近年の大学生のアイデンティティ形成について，心理臨床的な視点から論じた。
9.心理学的タイプと感覚処理感受性【査読付】	単	2023年6月	パーソナリティ研究，32，12-14.	心理学的タイプの特徴を感覚処理感受性の観点から精緻化するため，大学生女子263名が心理学的タイプ測定尺度（JPTS）と日本版感覚処理感受性尺度に回答した。心理学的タイプごとの感覚処理感受性尺度を検討したところ，内向感情タイプは易興奮性の得点が高いのに対し，外向感覚タイプおよび外向直観タイプは易興奮性の得点が低かった。このことより，内向感情タイプの背景に易興奮性の感受性の敏感さがあることが示唆された。
10.対極しあうものを共存させる両義性概念の検討 ―Jungのタイプ論の観点から― 【査読付】	単	2023年5月	人間学研究（武庫川女子大学人間学研究会），35，18-25	一般態度間ならびに心的機能間で対極し合うことを対極性，対極し合うことが共存し合うことを共存性，対極性と共存性を備えることをタイプ論の両義性と呼ぶ。本稿は，タイプ論の両義性と，意識に対する無意識の補償，対立するものの象徴，個性化の過程との概念的な整理を行った。
11.コロナ禍における大学院学内実習―2020	単	2023年3月	武庫川女子大学発達臨床心理学研究	コロナ禍における大学院学内実習の取り組みとして，2020年度のケース検討会・スーパーヴィジョンについて振り返った。

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
年度のケース検討会・スーパーヴィジョン―			所心理相談室紀要，1，15-22.	
12.一般的態度間ならびに心的機能間における両義性の検討【査読付】	単	2023年3月	武庫川女子大学発達臨床心理学研究所紀要，24，13-21.	一般的態度間や心的機能間における対極性ならびに共存性を含む両義性について，JPTS-Cを用いて複数の両価性指標を比較検討したところ，いずれも近似な関係にあった。また，EI間，TF間，SN間の両義性を比較したところ，いずれの両義性指標においてもEI間，SN間，TF間の順で両義性が高かった。一般的態度間と心的機能間において，対立し合う程度とともに，共存し合う程度も異なることが明らかになり，その背景について考察した。
13.コロナ禍における大学生のメンタルヘルス調査に関する動向2―2022年10月31日までの報告より	単	2023年2月	武庫川女子大学学生相談センター紀要，32，9-20	コロナ禍の大学生のメンタルヘルスについて，2021年11月から2022年10月31日までの報告について展望した。本稿では，コロナ禍での国内の大学生のメンタルヘルスに関する16本の文献を収集した後，1）コロナ禍における大学生のメンタルヘルスの特徴，2）コロナ禍における大学生のメンタルヘルスに関する要因，3）コロナ禍における大学生のメンタルヘルスと大学生活，4）コロナ禍における大学生のストレス対処から整理した。また，2020年度において国内の大学生のメンタルヘルスにコロナ禍の影響が見られ出した時期も検討した。
14.共存性を考慮に入れた心理学的タイプ測定尺度（JPTS-C）の作成【査読付】	単	2022年10月	心理臨床学研究，40，357-363.	本稿は，タイプ論の対極性を想定しながらも相補性を捉えるため，回答形式を単極形式の7段階評定尺度を対形式に変更し，新たなJungの心理学的タイプ測定尺度（JPTS-C）を作成した。JPTS-Cの内的整合性，JPTSの下位尺度との併存的妥当性はおおむね確認され，「外向－内向」間，「感覚－直観」間の機能的対極性も示された。また，「外向－内向」間の両義性の高さが主観的適応感と正の関連を示し，外向と内向の対極を共存させていることが主観的適応感の良好さとつながることが示唆された。
15.情緒に触れられるようになるまで―関係性外傷を抱えた青年期男性との精神分析的心理療法―【査読付】	単	2022年9月	京都精神分析心理療法研究所研究紀要，8，1-12.	自由連想の困難で，苦痛な情緒に触れられない，関係性外傷を抱えた青年期男性の心理療法過程を論じた。情緒を受け取れるようになるまでの地盤作りとしての詳細質問の役割について述べるとともに，詳細質問は一者的な技法ではなく転移／逆転移の文脈で行われる二者的アプローチであることを指摘した。また，そこで生じうる関係性の困難さをClの要望とThの参与の観点から論じた。
16.描画者および評定者における心理学的タイプとバウム作品の表現特徴ならびにその印象評価との関連【査読付】	単	2022年7月	箱庭療法学研究，35，29-42.	描画者および評定者における心理学的タイプとバウム作品の表現特徴ならびにその印象評価との関連を検討した。臨床心理学を専攻とする大学院生ならびにバウム・テストを臨床実践で用いている心理臨床家がバウム作品に対する印象評定尺度ならびに自身の心理学的タイプ測定尺度の回答を行ったところ，描画者ならびに評価者における心理学的タイプとバウム作品への印象評価との関連も認められた。バウム作品の印象評価には描画者の心理学的タイプとともに評価者自身の心理学的タイプも反映されていることが示唆された。
17.内向感情タイプにおける内的体験に関する覚え書き　【査読付】	単	2022年3月	人間学研究（武庫川女子大学人間学研究会），34，12-22.	本研究は内向感情タイプの内的体験を半構造化面接によって検討することが目的である。大学生男女に心理学的タイプの測定尺度を実施した後，個別面接調査の協力に応じた大学生男女9名に実施した。そのうち内向感情タイプの発話内容を質的に検討したところ，親密な対人関係を重視するあり方が述べられ，理論的想定よりも豊かで複雑であることが示唆された。
18.コロナ禍における大学生のメンタルヘルス調査に関する動向―2021年10月31日までの報告より	単	2022年2月	武庫川女子大学学生相談センター紀要，31，7-17	コロナ禍の大学生のメンタルヘルスについて2020年4月から11月に実施された調査研究を展望した。13本の文献から1）コロナ禍の大学生のメンタルヘルス，ストレス状況と属性要因，2）コロナ禍の大学生の不安，ストレス内容，3）大学への意識とメンタルヘルスの関連，4）パーソナリティとメンタルヘルスの関連から整理した。生活変化は大学生活だけでなく，日常生活や社会経済にも及び，国外の結果に比べて，メンタルヘルスに関する要因やプロセスは多様であることが報告されている。
19.関係性トラウマへの対人関係論アプローチ―Bromberg，P．の仕事を手がかりに―	単	2021年9月	京都精神分析心理療法研究所研究紀要，7，11-21.	対人関係論・関係論のBromberg氏の論考を参照として関係性トラウマの概念を整理した上で，関係性トラウマのケースへ対人関係論の理論や技法がどのような役割を果たしうるのか，臨床事例を用いて考察した。クライエントとセラピストとの関係性の進展は，解離さ

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
【査読付】				れた情緒を回収し，間主観性を伸ばすことでもある。またクライエントの解離された自己―状態間で衝突と交渉のプロセスが無事なされるためには，セラピストはクライエントの解離された自己―状態をパーソナルに感じておく必要があることを論じた。
20.関係性トラウマの心理臨床―J・ノックスの仕事を手がかりに―	単	2021年2月	武庫川女子大学学生相談センター紀要，30，29-44.	複雑な生育史をもち，長い問題歴や病歴があり，生きづらさや対人関係の困難さを抱え，複数の診断名のついた一群がある。これを「関係性トラウマrelational trauma」と呼び，その概念とその周辺概念について概説した。そして，J・ノックス氏の「早期関係性トラウマearly relational trauma」の論文を紹介しながら，「患者のために感じること」と「患者とともに感じること」の観点から臨床実践を考察した。
21.フロイトの症例「ねずみ男」に関する考察（Ⅷ）－「診療録」 と「公刊された論文」との対比	共	2020年6月	京都精神分析心理療法研究所研究紀要，6，1-16.	Freudによる強迫神経症の症例「ねずみ男」の診療記録について検討した（第1セッションから7セッションまで）。診療記録とその後に公刊された論文とを比較検討し、Freudが論文化する際にどのような点を省略、追加、修正したのか明らかにし、それらの内容や背景について考察した。 共著者：佐藤淳一・鑪幹八郎（共同研究につき本人担当部分抽出不能）
22.心理学的タイプと5因子モデルとの関連―パーソナリティの類型論的アプローチと特性論的アプローチ―【査読付】	単	2020年3月	人間学研究（武庫川女子大学人間学研究会）	本研究は心理学的タイプと5因子性格論との関連を明らかにするため。先行研究で行った心理学的タイプ測定尺度（JPTS）と日本版NEO-FFIの調査を再分析した。その結果，外向感情タイプはNEO-FFIの外向性，調和性，誠実性の得点が高いのに対し，内向感情タイプは神経症傾向が高く，開放性や誠実性が低く，対照的な結果が得られた。こうした結果から，心理学的タイプの特徴が5因子モデルの観点から精緻化された。
23.女子大生における心理学的タイプと精神的健康，適応感との関連【査読付】	単	2020年3月	武庫川女子大学紀要，67，43-50.	女子大生における心理学的タイプと精神的健康，主観的適応感との関連を検討した。大学生および短期大学生がJPTS，GHQ28，青年用適応感尺度に調査協力した。その結果，内向感情タイプは外向感情タイプよりも不安と不眠，抑うつ傾向を高く示し，外向感情や外向直観タイプは内向感情や内向感覚タイプよりも主観的適応感を高く示した。こうした結果から，内向感情タイプは精神的健康や主観的適応が総じて低く，リスクファクターであることが示唆された。
24.タイプ論の直観機能と夢への態度，夢み体験との関連【査読付】	共	2020年3月	武庫川女子大学発達臨床心理学研究所紀要，21,1-10.	タイプ論における直観機能と夢への態度，夢想起体験との関連を検討した。大学生女子140名が心理学的タイプ測定尺度（JPTS），夢への態度尺度，夢想起に関する質問に回答した。その結果，直観タイプは感覚タイプよりも夢への態度尺度得点が高く，また夢想起の頻度も高かった。直観タイプは夢への態度が積極的で夢み体験に開かれていること，また心理学的タイプにおける知覚機能の違いによって夢の態度や夢想起の頻度が異なることが示唆された。共著者：白井 綾菜・佐藤 淳一（共同研究につき本人担当部分抽出不能）
25.タイプ論の感情機能と共感イメージ反応の受容性【査読付】	単	2018年11月	パーソナリティ研究，27(1)	タイプ論の感情機能と共感イメージ反応の受容性との関連を検討するため，大学院生男女116名が共感イメージ課題，心理学的タイプ測定尺度（JPTS）に回答した。その結果，女性は感情機能の優勢なものほど，また男性は直観機能の優勢なものほど，子どもの期待に対する母親としての共感イメージ反応の受容性を高く示した。一方，感情機能や直観機能は，子どもの悲しみや怒りに対する共感的イメージ反応の受容性とは関連していなかった。こうした結果から、性差や感情内容の質によって，心的機能の共感的反応に受容する仕方が異なることが示唆された。
26.箱庭制作者および評価者における心理学的タイプと作品表現，印象評価との関連【査読付】	単	2018年10月	箱庭療法学研究，31(1),65-77.	本研究は箱庭制作者の心理学的タイプと作品表現ならびに制作過程との関連を明らかにするため，大学院生男女32名が箱庭の制作と心理学的タイプ測定尺度の回答を行ったところ，箱庭の作品表現や制作過程には制作者の一般態度のあり方が反映していることが示唆された。次に，臨床心理学専攻の大学院修士課程院生18名が箱庭作品を印象評定尺度と了解尺度を用いて評定したところ，箱庭作品の印象評価や理解度には制作者の心理学的タイプとともに評価者自身の心理学的タイプも反映していることが示唆された。
27.女子大生における現在のアイデンティ	共	2018年03月	武庫川女子大学発達臨床心理学研究	従来のアイデンティティ・ステイタスを現在のアイデンティティ危機とコミットメントの観点から位置づけた上で，主観的適応感との

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
ティ・ステイタスと主観的適応感との関連【査読付】			所紀要，19，25-35.	関連を明らかにした。女子大学生に質問紙調査を行ったところ，現在のアイデンティティ・ステイタスは「危機・投入群」，「投入群」，「危機群」の3つに類型化された。そして，「危機・投入群」と「投入群」は「危機群」よりも適応感を高く示したことから，現在アイデンティティ危機を経験していても高い水準で自己投入をしていれば適応感の低下を招かないことが示唆された。共著者：山村優季・佐藤 淳一（共同研究につき本人担当部分抽出不能）
28.Additional report about the validity of the Jung Psychological Types Scale 【査読付】	単	2017年05月	Online Journal of Japanese Clinical Psycholog，4，1-7	The Jung Psychological Type Scale (JPTS) is the most recently developed instrument for the measurement of Jung’s psychological types. This present study provides additional assessment of the validity of the JPTS using data from Japanese university students. Evidence for the concurrent validity of JPTS scores is presented based on agreement of psychological types with the MBTI Form M . These findings suggest that the categorical approach provides additional support for the validity of the JPTS.
29.不登校を主訴とする中学生の心理面接過程における重要な出来事－事例の質的なメタ分析－【査読付】	単	2016年05月	臨床心理学，16(3)，333-341	不登校を主訴とする中学生本人の個人心理面接の終結事例を，公刊されている学術雑誌から複数抽出し，それらの面接経過から「重要な出来事」を同定し，面接段階別にどのような特徴が見られるのかグラウンディッドセオリーアプローチを用いて検討した。その結果，C1の出来事の領域に「イメージの表現，遊び，趣味の話」のカテゴリーが中心的に認められ，なかでも想像、空想活動を通した情緒表出の重要性が示唆された。また性差では，女子の場合「現実的な語り」が見られ治療関係に言語的交流を伴うが，男子の場合「現実的な語り」が見られず治療関係も非言語的交流が中心であった。
30.教員養成大学生における自己決定タイプと適応感および抑うつとの関連	共	2015年03月	上越教育大学心理教育相談研究，14，47-59	アイデンティティ形成と職業決定意識との関連が教員養成大学生の適応感および抑うつに及ぼす影響を明らかにした。質問紙調査を行ったところ，職業決定意識の高低に関わらず，アイデンティティ形成度が高い者が適応感が高く，抑うつ傾向が低いことが示された。従来職業決定意識が強調されてきたが，それに関わらずアイデンティティ形成が進んでいる者は適応や精神的健康の低下を招かないことが示唆された。 共著者：竹村有貴・佐藤 淳一
31.心理学的タイプの向性とロールシャッハ・テストの体験型との関連【査読付】	単	2014年08月	心理臨床学研究，32，392-397	心理学的タイプの向性とロールシャッハ・テストの体験型の関連について，体験型をより包括的に捉える新たな指標を設けたうえで，両者を実証的に再検討したが，有意な関連はみられなかった。このことから，両者の概念を同一のものとして扱うことには注意を要すること，さらにはRorschachのextratensivをタイプ論と区別して「外拡」と訳したように，introversivも従来の「内向型」ではなく「内拡型」と呼ぶほうがふさわしいことが示唆された。
32.大学生における日常的解離と適応感，精神的健康との関連－主体性の観点からの検討	共	2014年03月	上越教育大学心理教育相談研究，13，12-23	日常生活で体感しうる日常的解離を取り上げ，それが働く基盤である主体性の形成とどのように組み合わさり，精神的健康や適応感に影響を及ぼすのか検討した。大学生男女を対象に質問紙調査を行ったところ，日常的解離を多く体験していても主体性が形成されていれば適応感や自尊心の低下と結びつかないが，逆に主体性が形成されていなければ適応感や自尊感情の低下と結びつくことが示唆された。 共著者：齋藤真結子・佐藤淳一
33.子どもの不登校をきっかけに来談した母親の心理面接過程－「子ども」を巡る罪悪感	共	2014年03月	上越教育大学心理教育相談研究，13，67-77	子どもの不登校をきっかけに来談した母親の終結事例のプロセスについて検討した。母親は「子ども」を巡る罪悪感や後悔を繰り返し語ることによって，自身の葛藤を整理し，さらには母親自身が変容していった。こうした罪悪感や後悔は，たんに子どもの不登校のことだけでなく，「子ども」との分離の悲哀であると理解できる。さらに別の角度からみれば，母親自身の個性化の萌芽としても理解できることが論じられた。 共著者：佐藤淳一・中條裕子・徳嵩かおり・今井恭平
34.「死と再生」再考―被虐待経験のある中学生男子との遊戯療	単	2013年11月	箱庭療法学研究，26(2)，5-16	被虐待経験のある中学生男子との遊戯療法過程を通して，「死と再生」概念の再検討を行った。イニシエーションの象徴表現である「死と再生」のプロセスは，「死」の体験の後に「再生」が訪れる

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
法【査読付】				というよりも，むしろ「再生の死」，あるいは「死の再生」という過程が繰り返されることによって，そしてそのプロセスは弔い，鎮魂イメージによって完遂されることが論じられた。
35.親面接における二重性	単	2013年03月	上越教育大学心理教育相談研究，12，79-88	心理臨床において親・親子並行面接は多く実践されているが，体系立てて論じられることはさほど多くない。本論文は，親面接・親子並行面接の意味や役割について述べた後，親面接の過程に生じるさまざまな論点を取り上げながら，そこにはある種の二重性がつきまとうことを論じた。それは，外的現実と捉えるだけでも心的現実として捉えるだけでも十分とは言い切れない，“二重性の現実”とも呼べる側面があることを論じた。
36.大学生における被共感経験と適応感，精神的健康との関連	共	2013年02月	上越教育大学研究紀要，32，191-199	これまで共感研究では，他者を共感するという「共感経験」を捉えていて，他者から共感されるという「被共感経験」は扱われてこなかった。そこで本研究は，大学生における共感経験，被共感経験と適応感，精神的健康との関連を検討した。その結果，共感経験の高いものは必ずしも高い適応感を示すわけではなかったが，被共感経験の高いものは比較的高い適応感を示した。こうした結果から，大学生における被共感経験の重要性が論じられた。 共著者：秋山佳子・佐藤淳一
37.青年期における自己愛傾向と対人恐怖心性との関連	共	2012年03月	上越教育大学心理教育相談研究，11，71-81	Gabbardの言う「評価過敏性」と「誇大性」の観点から自己愛を捉えた上で，青年期における自己愛傾向と「おびえ」の心性に基づく対人恐怖心性との関連を検討した。大学生男女を対象に質問紙調査を行った結果，評価過敏性と誇大性がともに両高群と誇大性のみが高い評価過敏群は，その他の群よりもおびえに基づく対人恐怖心性が高く，精神的健康度も低かった。その一方で，両高群は評価過敏群よりも適応感が高かった。こうした結果について自己愛の観点から考察を行った。 共著者：星野光紀・佐藤淳一
38.不登校研究の展望（Ⅱ）―国内における1980年代の臨床心理学の事例論文から	共	2012年02月	上越教育大学研究紀要，31，169-179	国内における1980年代の「登校拒否・不登校」に関する臨床心理学の事例論文を展望した。70年代よりも事例研究の数は増え，名称としては登校拒否がよく使われていた。心理療法の種類は，「来談者中心療法」、「力動的心理療法」，「行動療法」，「家族療法」が報告され，その面接経過については心理療法の種類や形態によってさまざまな過程が見られるようになっている。 共著者：佐藤淳一・岩田嘉光・齋藤真結子・星野光紀・橋本賢司・秋山佳子
39.心理療法家における心理学的タイプ―心理療法の学派および技法のオリエンテーションとの関連【査読付】	単	2012年02月	心理臨床学研究，30(4)，548-558	心理療法家の心理学的タイプと学派および技法のオリエンテーションとの関連を明らかにするため，質問紙調査を行ったところ，分析心理学を学派として志向する心理療法家群や，芸術療法・夢分析の技法を実践する心理療法家群は，相対的に直観機能が高かった。一方，一般態度については学派や技法の志向性と関わっていなかった。こうした結果から，心理療法家の心理学的タイプと心理療法の学派および技法の志向性との関係が考察された。
40.居場所と精神的健康との関連――人でいられる能力の観点から	共	2011年03月	上越教育大学心理教育相談研究，10，67-79	Winnicottの言う「一人でいられる能力」を内的な居場所と捉えた上で，内的な居場所が外的な居場所とどのように組み合わさり，精神的健康などに影響を及ぼしているのかを検討した。高校生男女を対象に質問紙調査を行ったところ，外的な社会的居場所が得られているものであっても，一人でいられる能力が低ければ精神的健康度が低く示された。 こうした結果から，一人でいられる能力の重要性について考察された。 共著者：今井恭平・佐藤淳一
41.フロイトの症例「ねずみ男」に関する考察（Ⅶ）―「診療録」と「公刊された論文」との対比	共	2011年03月	京都文教大学臨床心理学部研究報告，3，141-157	Freudによる強迫神経症の症例「ねずみ男」の診療記録について検討した（第40セッションから47セッションまで）。診療記録とその後に公刊された論文とを比較検討し，Freudが論文化する際にどのような点を省略，追加，修正したのか明らかにし，それらの内容や背景について考察した。 共著者：鑪幹八郎・佐藤淳一
42.不登校研究の展望―国内における70年代までの「学校恐怖	共	2011年02月	上越教育大学研究紀要，30，123-132	国内における70年代までの「学校恐怖症・登校拒否」の文献を収集し，「来談者中心療法／力動的心理療法」，「行動療法」といった事例研究，「心理査定」，「心理面接・治療過程」，「要因・類型

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
症・登校拒否」				化」，「予後」といった調査研究にわけ，それぞれの分類ごとに内容を検討した。 共著者：佐藤淳一・今井恭平・大西愛美・岩田嘉光・齋藤真結子・星野光紀・小出奈津子
43.フロイトの症例「ねずみ男」に関する考察（VI）―「診療録」と「公刊された論文」との対比	共	2010年08月	京都文教大学臨床心理学部研究報告，2，179-192	Freudによる強迫神経症の症例「ねずみ男」の診療記録について検討した（第30セッションから39セッションまで）。診療記録とその後に公刊された論文とを比較検討し，Freudが論文化する際にどのような点を省略，追加，修正したのか明らかにし，それらの内容や背景について考察した。 共著者：鑪幹八郎・佐藤淳一
44.バウム・テストとJungの心理学的タイプ	単	2010年03月	上越教育大学心理教育相談研究，9，73-82	描画者におけるパーソナリティ特性と描画作品との関連を明らかにするため，大学生男女を対象にJungの心理学的タイプ測定尺度とバウム・テストを実施し，心理学的タイプ別にバウム作品の特徴を量的分析（形態分析）ならびに質的分析（動態分析および全体的印象）から検討した。その結果，心理学的タイプ別にバウム作品の特徴が明らかになり，描画者における心理学的タイプがバウム作品に反映されていることが示唆された。
45.共感性と感情機能-Jungのタイプ論による検討	単	2010年02月	上越教育大学研究紀要，29，159-167	感情機能が高ければ共感性が高いという従来の知見を再検討するため，共感性を共有経験と共有不全経験から位置付けたうえで心理学的タイプとの関連を検討した。その結果，内向感情タイプにおいては他者理解の際に個別性の認識をもった共感を示すのに対し，外向感情タイプにおいては個別性の認識をもたない同情を示しており，必ずしも感情機能が高ければ共感性が高いわけではないことが示唆された。
46.強迫傾向と完全主義の関連	共	2009年03月	上越教育大学心理教育相談研究，8，81-89.	強迫傾向も完全主義も「しなければならない」と考える性格で、そうした考えにとらわれている。本研究は、完全主義を「自分に向けられるもの」とともに「他者から望まれるもの」も含めて定義し、大学生における強迫傾向との関連を実証的に検討した。その結果、両者は「ミスを気にすること」、「漠然とした疑いをもつこと」、「優柔不断であること」が共通していたが、完全主義の「整理整頓」は強迫傾向と関わっていなかった。 共著者：中條裕子・佐藤淳一
47.KretchmerのとJungの心理学的タイプ－向性概念をめぐって【査読付】	単	2009年03月	パーソナリティ研究，17(2)，223-225	これまでKretchmerの気質タイプとJungの心理学的タイプの向性との関連については、循環気質と外向性､分裂気質と内向性との対応が理論に指摘されたこともあったが､実証的に明らかにされていなかった。そこで、大学生を対象に気質タイプ尺度と心理学的タイプ尺度を実施したところ、仮説通り、循環性気質タイプと外向タイプ、分裂性気質タイプと内向タイプの連関が示された。
48.Jungの心理学的タイプ測定尺度（JPTS）の作成【査読付】	単	2005年08月	心理学研究，76(3)，203-210	Jungの心理学的タイプを測定する既存尺度についてはさまざまな課題が指摘されているため，国内で用いることのできる新たな尺度（Jung Psychological Types Scale; JPTS）を作成した。JPTSの特徴は，1）Jung派分析家による内容妥当性が確認されたこと，2）内的整合性と安定性から信頼性が得られたこと，3）検証的因子分析によりタイプ論の概念を反映する3因子モデルが得られたこと，4）MBTIによる併存妥当性の検討が行われたこと，5）ビッグ・ファイブの3側面に対応していることである。
49.Jungのタイプ論に関する研究の展望（Ⅱ）－理論的論考を中心に	単	2005年03月	甲南大学紀要文学編，137，139-155	これまでのJungのタイプ論研究に関する理論的論考について展望した。分析心理学においてタイプ論は、たんにクライエントを理解するためだけでなく、セラピスト自身の立場を理解する批判的道具として、あるいは分析場面での羅針盤として位置づけられている。タイプ論の対極性についての賛否の議論，個性化の過程におけるタイプ論の役割、元型心理学におけるタイプ論の概念について整理した。
50.症例「ねずみ男」に関する考察（IV）－診療記録の翻訳の試みおよび公刊された論文との対比	共	2005年03月	京都文教大学大学院臨床心理学研究科紀要，3，65-73	Freudによる強迫神経症の症例「ねずみ男」の診療記録について検討した（第18セッションから23セッションまで）。まず、診療記録の邦訳を試み、実際のセッションや治療過程を理解した。次に、その診療記録とその後に公刊された論文とを比較検討し、Freudが論文化する際にどのような点を省略、追加、修正したのか明らかにし、それらの内容や背景について考察した。

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
51.症例「ねずみ男」に関する考察（Ⅴ）－診療記録の翻訳の試みおよび公刊された論文との対比	共	2005年03月	京都文教大学大学院臨床心理学研究科紀要，3，75-84	共著者：鑪幹八郎・佐藤淳一 Freudによる強迫神経症の症例「ねずみ男」の診療記録について検討した（第24セッションから29セッションまで）。まず、診療記録の邦訳を試み、実際のセッションや治療過程を理解した。次に、その診療記録とその後に公刊された論文とを比較検討し、Freudが論文化する際にどのような点を省略、追加、修正したのか明らかにし、それらの内容や背景について考察した。
52.フロイトの症例「ねずみ男」に関する考察（Ⅱ）－診療記録の翻訳の試みおよび公刊された論文との対比	共	2004年03月	京都文教大学大学院臨床心理学研究科紀要/研究編，2，115- 124	共著者：鑪幹八郎・佐藤淳一 Freudによる強迫神経症の症例「ねずみ男」の診療記録について検討した（第10セッションから11セッションまで）。まず、診療記録の邦訳を試み、実際のセッションや治療過程を理解した。次に、その診療記録とその後に公刊された論文とを比較検討し、Freudが論文化する際にどのような点を省略、追加、修正したのか明らかにし、それらの内容や背景について考察した。
53.フロイトの症例「ねずみ男」に関する考察（Ⅲ）－診療記録の翻訳の試みおよび公刊された論文との対比	共	2004年03月	京都文教大学大学院臨床心理学研究科紀要/研究編，2，125-133	共著者：佐藤淳一・鑪幹八郎 Freudによる強迫神経症の症例「ねずみ男」の診療記録について検討した（第12セッションから17セッションまで）。まず，診療記録の邦訳を試み，実際のセッションや治療過程を理解した。次に，その診療記録とその後に公刊された論文とを比較検討し，Freudが論文化する際にどのような点を省略，追加，修正したのか明らかにし，それらの内容や背景について考察した。
54.Jungの心理学的タイプにおける質的検討の試み－半構造化面接，共感イメージ課題，絵画および音楽作品に対する感受性を通して【査読付】	単	2003年12月	心理臨床学研究，21(5)，496-507	共著者：佐藤淳一・鑪幹八郎 Jungの心理学的タイプを質的に検討することを試みた。心理学的タイプの各代表者を選出し、個別の面接調査を行った。まず、語りの内容をタイプ別にまとめ、考察を行った。共感イメージ課題に対する反応内容からは、感情タイプは思考タイプよりも「悲しみ」に対する共感性が高いことが示された。また、絵画と音楽作品に対する感受性内容からは、直観タイプは感覚タイプよりも、作品の属性に捉われない知覚様式の特徴がみられた。
55.Jungのタイプスケールに関する基礎研究－GW/JTS，MBTI，SL-TDI における信頼性および妥当性の比較検討【査読付】	単	2003年10月	心理臨床学研究，21(4)，410-415	心理学的タイプを測定する既存尺度GW/JTS、MBTI、SL-TDIの日本語版を作成し、その信頼性と妥当性を比較検討した。その結果、内的整合性による信頼性については、MBTIおよびSL-TDIが十分な結果を示し、MBTIの因子妥当性については、おおむねタイプ論を反映する因子構造を示した。
56.Jungのタイプ論に関する研究の展望－心理療法場面に関する研究を中心に	単	2003年03月	甲南大学紀要文学編，127，32-43	Jungのタイプ論研究の中でも、臨床場面に関する文献を取り上げて展望した。分析心理学におけるセラピストの心理学的タイプ、クライエントとの心理学的タイプの類似性とその治療効果を検討した調査研究がある。また，MeierやGrosebeckは心理学的タイプの力動的視点から転移・逆転移関係について分析を行い、両者の劣等機能が面接の転回点において重要な役割を果たすことを論じている。
57.フロイトの症例「ねずみ男」に関する考察（Ⅰ）－診療記録の翻訳の試みおよび公刊された論文との対比－	共	2003年03月	京都文教大学大学院臨床心理学研究科紀要/研究編，創刊号，117-130	Freudによる強迫神経症の症例，俗称「ねずみ男」の診療記録について検討した（第1，8，9セッション）。まず，ねずみ男研究に関する先行研究を展望した。次に，診療記録の邦訳を試み，実際のセッションや治療過程を理解した。そして，診療記録と公刊された論文と比較検討し，Freudが論文化するにあたって省略，追加，修正した記録の箇所を明らかにし，それらの内容や背景について考察した。 共著者：佐藤淳一・鑪幹八郎
その他				
１．学会ゲストスピーカー				
２．学会発表				
1.情緒を避け，前向きに取り繕う男性との心理面接過程	単	2024年11月8日	日本精神分析学会第70回大会　名古屋国際会議場	
2.感覚処理感受性ならびにエンパスと最も親しい友人との関係	共	2024年8月24日	日本心理臨床学会第43回大会　パシフィコ横浜	共同発表：田中志帆・佐藤淳一

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
２．学会発表				
3.対極性と共存性を考慮に入れた心理学的タイプ測定尺度（JPTS-C）の両義性に関する妥当性の検討	単	2024年8月23日	日本心理臨床学会第43回大会　パシフィコ横浜	
4.ユングのタイプ論はいつタイプ論となったのか？―タイプ論概念の形成過程を巡って―	単	2024年6月2日	日本ユング心理学会第12回大会　AP大阪淀屋橋	1913年のTwo Type Theoryがいつどのようにして1921年のタイプ論となったのか，タイプ論概念の形成過程について再検討した。
5.箱庭制作者における心理学的タイプの両義性と作品表現との関連－JPTS-Cを用いて	単	2023年9月2日	日本心理臨床学会第42回大会　パシフィコ横浜	
6.描画作品および評定者の印象評価パターンと描画作品の了解度－非言語的表現の心理査定に関わる受検者および評価者のパーソナリティ要因の検討4	単	2022年9月	日本心理臨床学会第41回大会 Web開催	
7.心理臨床家の描画実践歴とバウム作品への印象評価－バウム作品の心理査定に関わる受検者および評価者のパーソナリティ要因の検討3－	単	2021年9月	日本心理臨床学会第40回大会　Web開催	
8.バウム作品の心理査定に関わる受検者および評価者のパーソナリティ要因の検討2―心理臨床家を対象に	単	2020年11月	日本心理臨床学会第39回大会　Web開催	
9.「子どもが泣くとどうしたらいいか分からない」と訴える母親の面接過程－想起されない感情を巡って	共	2020年11月	日本心理臨床学会第39回大会　Web開催	共同発表：浅野（旧姓河本）尚佳・佐藤淳一
10.描画者および評定者における心理学的タイプとバウム作品の表現特徴，印象評価との関連	単	2019年11月	日本箱庭療法学会第33回大会　京都大学吉田キャンパス	描画者および評定者における心理学的タイプとバウム作品の表現特徴，印象評価との関連について，心理臨床家（初心者）を対象とした調査結果を報告した。
11.心理学的タイプの両義性と精神的健康，主観的適応感との関連－矛盾するパーソナリティ特性を共存させる両義性の検討2	単	2019年09月	日本心理学会大第83回大会　立命館大学いばらきキャンパス	心理学的タイプからみたパーソナリティの共存度と幅広さが，精神的健康，主観的適応感とどのように関わるか検討した。
12.心理学的タイプと精神的健康，主観的適応感との関連	単	2019年08月	日本パーソナリティ心理学会第28回大会　武蔵野美術大学	心理学的タイプと精神的健康，主観的適応感との関連について検討した。
13.情緒に触れられるよ	単	2019年06月	日本心理臨床学会	青年期男性事例の情緒に触れられるようになるまでの過程とThとの

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
２．学会発表				
うになるまで－要望と参与の弁証法－		07日	第38回大会 パシフィコ横浜	関係性について，精神分析的心理療法の観点から考察した。
14.登校渋りと落ち着きのなさを主訴とする男児とのプレイセラピー―自己表現と母親像の変化―	共	2019年06月07日	日本心理臨床学会大学38回大会　パシフィコ横浜	登校渋りと落ち着きのなさを主訴とする男児とのプレイセラピー過程から、自己表現と母親イメージの変化を考察した。共同発表：山口めぐみ・佐藤淳一
15.バウム・テスト2枚法による自己像の変動性―印象評価の観点から	共	2017年11月19日	日本心理臨床学会第36回秋季大会 パシフィコ横浜	バウム・テスト2枚法を用いた場合の自己像の変動性を印象評価の観点から検討した。共同発表：大矢真里・大矢薫・岩田嘉光・星野光紀・佐藤淳一
16.箱庭制作者と評定者における心理学的タイプと作品の印象評価	単	2017年09月20日	日本心理学会第81回大会　久留米シティプラザ	箱庭制作者と評定者における心理学的タイプと，箱庭作品への印象評価との関連を検討した。
17.相補性を考慮に入れた心理学的タイプ測定尺度の作成	単	2017年09月08日	日本パーソナリティ心理学会第26回大会　東北文教大学	対極性を保ちつつ相補性を考慮に入れた心理学的タイプ測定尺度を作成し，その信頼性ならびに併存的妥当性，機能的対極性を検討した。
18.児童養護施設における被虐待児の心理的特徴5―小学生を対象としたバウム作品のイメージ評定	共	2016年09月05日	日本心理臨床学会第35回秋季大会 パシフィコ横浜	児童養護施設の入所児童（小学生）の心理的特徴を明らかにするために，バウムテスト2枚法の作品を用いて，S-D法による印象評定によって検討した。共同発表：大矢真里・大矢薫・岩田嘉光・星野光紀・佐藤淳一
19.大学生における心理学的タイプと箱庭作品の特徴	単	2016年09月05日	日本心理臨床学会第35回秋季大会 パシフィコ横浜	大学生における箱庭制作者の心理学的タイプと箱庭作品の特徴との関連を検討した。
20.大学生における対象関係パターンと自尊感情，精神的健康との関連	共	2014年08月24日	日本心理臨床学会第33回秋季大会 パシフィコ横浜	大学生の対象関係の様相を明らかにするために，対象関係パターンと本人の自尊感情，ならびに精神的健康との関連を検討した。同発表：皆川恵・佐藤淳一
21.Qualitative analysis of significant events in psychotherapy for school refusal in Japan	単	2014年08月08日	122nd Annual Convention of APA 2014, The Walter E. Washington Convention Center	The puropose of thies study was to examine the signigicant events described by therapists on the baseis their importance for understanding the course of treatment in psyhotherapy for school refusal in Japanese junior high school students.
22.児童養護施設における被虐待児の心理的特徴4―トラウマ反応と抑うつ反応について	共	2013年09月21日	日本心理学会第77回大会　札幌コンベンションセンター	児童養護施設の入所児童（中高生）の心理的特徴を明らかにするために，非臨床群と比較しながら，トラウマ反応と抑うつ反応を検討した。共同発表：佐藤淳一・林直・市川捨蔵・高野善晴・樋口悦子・平原富江・大矢真里
23.不登校を主訴とする中学生の心理面接過における重要な出来事－事例の質的なメタ分析	共	2013年08月27日	日本心理臨床学会第32回秋季大会 パシフィコ横浜	不登校を主訴とする中学生の成功事例のなかから重要な出来事を抽出し，面接経過から有効なプロセスを明らかにするため，公刊された事例論文の質的なメタ分析を行った。共同発表：佐藤淳一・皆川恵
24.児童養護施設における被虐待児のバウム作品3―中高生を対象としたSD法評定	共	2013年08月26日	日本心理臨床学会第32回秋季大会 パシフィコ横浜	児童養護施設の入所児童（中高生）の心理的特徴を明らかにするために，バウムテスト2枚法の作品を用いて，S-D法による印象評定によって検討した。共同発表：大矢真里・今井恭平・岩田嘉光・齋藤真結子・星野光紀・佐藤淳一
25.大学生における解離傾向と精神的健康，適応感との関連	共	2012年09月14日	日本心理臨床学会第31回秋季大会 愛知学院大学	大学生における解離傾向の適応、不適応的な面を明らかにするために精神的健康，適応感との関連を検討した。共同発表：齋藤真結子・佐藤淳一
26.児童養護施設における被虐待児のバウム作品2―中高生を対象とした量的分析結果	共	2011年09月02日	日本心理臨床学会第30回秋季大会 福岡国際会議場	児童養護施設の入所児童（中高生）の心理的特徴を明らかにするために，バウムテスト2枚法の作品を用いて非臨床群と比較しながら検討した。共同発表：山田真里・今井恭平・岩田嘉光・齋藤真結子・星野光紀・佐藤淳一

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
２．学会発表				
27.児童養護施設における被虐待児の心理的特徴－バウムテストを用いて	共	2010年09月03日	日本心理臨床学会第28回秋季大会 東京国際フォーラム	児童養護施設の入所児童（小学生）の心理的特徴を明らかにするため，バウムテスト2枚法の作品を用いて非臨床群と比較しながら検討した。共同発表：山田真里・佐藤淳一
28.青年期における対人恐怖心性と攻撃性の関連－P-Fスタディを用いた検討	共	2010年09月03日	日本心理臨床学会第29回秋季大会 東北大学	対人恐怖心性の背景にある攻撃性を明らかにするため，おびえを訴える現代的な対人恐怖心性と攻撃性との関連をP=Fスタディ等を用いて検討した。共同発表：徳嵩かおり・佐藤淳一
29.甘えのスタイルと強迫傾向との関連－素直な甘えと屈折した甘えとの関連から	共	2010年09月03日	日本心理臨床学会第29回秋季大会 東北大学	健康的な受身的対象愛を明らかにするため，大学生を対象に素直な「甘え」や屈性した「甘え」といった「甘え」スタイルと強迫傾向との関連を検討した。共同発表：大西愛美・佐藤淳一
30.Jungの心理学的タイプとTAT反応について	共	2009年09月21日	日本心理臨床学会第28回秋季大会 東京国際フォーラム	大学生における心理学的タイプとTAT反応の特徴との関連を検討した。共同発表：佐藤淳一・中條裕子・徳嵩かおり・山田真里
31.強迫傾向と完全主義の関連-自尊感情・楽観主義による弁別	共	2009年09月20日	日本心理臨床学会第28回秋季大会 東京国際フォーラム	大学生における強迫傾向と完全主義の関係を明らかにするため，自尊心ならびに楽観主義の観点から検討した。共同発表：中條裕子・佐藤淳一
32.共感性と感情機能について	単	2009年8月28日	日本心理学会第73回大会　立命館大学	大学生における心理学的タイプと共感経験（共有経験と共有不全経験）との関連を検討した。
33.Jungの心理学的タイプとロールシャッハ反応について	単	2007年09月29日	日本心理臨床学会第26回大会　東京国際フォーラム	大学生における心理学的タイプとロールシャッハ反応の特徴との関連を検討した。
34.大学生におけるバウム作品－Jungの心理学的タイプとバウム・テストについて2	共	2006年11月	日本心理学会第70回大会　九州大学	大学生における心理学的タイプとバウム作品の特徴との関連を新たな尺度JPTSを用いて検討した。共同発表：佐藤淳一・阪田康嗣・和田卓也
35.セラピストにおける心理学的タイプ－学派および技法選択からみた検討	単	2006年09月	日本心理臨床学会第25回大会 関西大学	心理臨床家における心理学的タイプと心理療法の学派および技法選択との関連を検討した。
36.Jungの心理学的タイプとバウム・テストについて	単	2004年09月	日本心理臨床学会第23回大会 東京国際大学	大学生における心理学的タイプとバウム作品の特徴との関連をJTQを用いて検討した。
37.Jungの心理学的タイプスケール作成の試み（Ⅲ）	単	2004年09月	日本心理学会第68回大会 関西大学	先に作成したJTQの課題を踏まえ、新たな心理学的タイプの測定尺度（JPTS）の信頼性，妥当性を検討した。
38.Jungの心理学的タイプスケール作成の試み	単	2003年09月	日本心理臨床学会第22回大会 国立京都国際会館	心理学的タイプを測定する尺度（JTQ）の信頼性，因子妥当性を検討した。
39.Jungの心理学的タイプスケール作成の試み（Ⅱ）	単	2003年09月	日本パーソナリティ心理学会第12回大会 同志社大学	心理学的タイプを測定する尺度（JTQ）の構成概念妥当性を検討した。
３．総説				
４．芸術（建築模型等含む）・スポーツ分野の業績				
５．報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
1.日本ロールシャッハ学会第32回大会 ワークショップB 事例発表	単	2024年10月19日	日本ロールシャッハ学会第32回大会 ワークショップB 事例発表	講師：高橋靖恵先生　山梨英和大学
2.ユングのタイプ論における直観　特集「対人支援における直感」	単	2024年9月4日	オンライン・マガジン「シンリンラボ」 第18号（2024年9月号） 遠見書房	特集「対人支援における直感」の第4回として，ユングのタイプ論における直観について説明し，直観に関する研究成果や，臨床実践への活かし方について述べた。

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
５．報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
3.【書評】“The Art of Psychotherapy” と “Storr's The Art of Psychotherapy”―A・ストーとJ・ホームズ―	単	2023年3月	武庫川女子大学発達臨床心理学研究所紀要，24，27-32.	A・ストー（著）『The Art of Psychotherapy（邦題: 心理面接の教科書)』と，A・ストーの意思を受け継いでJ・ホームズが2012年に改訂した “Storr’s The Art of Psychotherapy” を紹介した。第3版としてホームズ氏が著者となっているが，書名は「ストーの」と銘打っており，著作権は両者に属する。両著の書評も比べながら，両者の関係を述べた。
4.【指定討論】第21回近畿地区大学院心理臨床事例研究会		2022年9月11日	近畿地区大学院心理臨床事例研究会　Web開催	分科会事例発表へのコメントを行った。
5.非言語的表現の心理査定に関わる受検者および評価者のパーソナリティ要因の検討―バウム・テストを用いて―	単	2020年03月	平成３０年度日本心理臨床学会助成研究成果報告書	非言語的表現の心理査定に関わる受検者および評価者のパーソナリティ要因について，バウム・テストを用いて検討した。
6.【指定討論】第18回近畿地区大学院心理臨床事例研究会		2019年9月8日	近畿地区大学院心理臨床事例研究会　龍谷大学	全体会事例発表へのコメントを行った。
7.【指定討論】　第22回武庫川臨床心理学研究会		2019年3月	第22回武庫川臨床心理学研究会　武庫川女子大学	全体会事例発表へのコメントを行った。
8.【翻訳】J・ノックス著　「患者のために感じること」と「患者とともに感じること」：間主観性および共感性における発達的，神経科学的視点（再掲）	単	2019年03月	武庫川女子大学発達臨床心理学研究所紀要，20，25-44.	‘Feeling for’ and ‘feeling with’: developmental and neuroscientific perspectives on intersubjectivity and empathyの邦訳。著者のJ・ノックスは，英国の精神科医で，関係性と愛着理論に親和性をもつユング派分析家。本稿では，早期関係性トラウマを示す対人関係プロセスや精神病理について論じている。その治療関係を，「患者のために感じることfeeling for」と「患者とともに感じることfeeling with」という共感性の二つの形態から精神分析的考察を行っている。冒頭には本稿の位置づけなどを含めた解説をつけた。
9.【翻訳】J・ベンジャミン著　間主観性の概略：認識の発達	単	2019年03月	一般社団法人京都精神分析心理療法研究所研究紀要，5，6-17.	Benjamin, J. (1990). An outline of intersubjectivity: The development of recognition. Psychoanalytic Psychology, 7S (Supplement), 33-46の邦訳。関係精神分析の論客Benjaminは間主観性を，「対象としての他者」を認識すること（補足的構造）から，「主体としての他者」を認識すること（間主観的構造）への決定的に重要な発達的到達とみなした。本論からは，Benjaminが独自の考えをWinnicottを参照としながら精緻にかつ明快に論じているプロセスが読みとれる。冒頭には本論の位置づけなどを含めた解説をつけた。
10.【指定討論】　第17回近畿地区大学院心理臨床事例研究会		2018年9月16日	近畿地区大学院心理臨床事例研究会　武庫川女子大学	分科会事例発表へのコメントを行った。
11.【報告書】心理査定の印象評価に関わる受検者および評価者のパーソナリティ要因に関する研究	単	2018年03月	平成２９年度武庫川女子大学科学研究費奨励金研究報告書	心理査定の印象評価に関わる受検者および評価者のパーソナリティ要因に関する研究について，箱庭作品を用いた調査結果について報告した。
12.【翻訳】A・M・ジョンソン，E・I・ファルスタイン，S・スズレック＆M・スヴェンセン（著）「学校恐怖症」（再掲）	単	2018年02月	学校教育センター年報（武庫川女子大学学校教育センター），3，193-202	Johnson, A. M., Falstein, E. I., Szurek, S. A. & Svendsen, M. (1942) School Phobia, American Journal of Orthopsychiatry, 11, 702-711.の邦訳である。不登校研究の原典となる古典論文。従来の怠学や精神障害とは異なる神経症の一群として提起した点に大きな意義がある。分離不安を主とする不登校事例として知られているが，母子の世代間連鎖あるいは関係性トラウマの事例としても理解できる。本論の前半はジョンソンらによる学校恐怖症の事例報告とその解説，後半はマーキーによる討論となっている。
13.【指定討論】　発達障害をもつ男子中学		2017年11月18日	日本心理臨床学会第36回大会自主シ	学会自主シンポジウムの事例発表へのコメントを行った。

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
５．報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
生の父子並行面接－大学附設相談室における臨床心理実践（その3）			ンポジウム　パシフィコ横浜	
14.【指定討論】　第16回近畿地区大学院心理臨床事例研究会		2017年7月	第16回近畿地区大学院心理臨床事例研究会　龍谷大学大宮キャンパス	分科会事例発表へのコメントを行った。
15.【指定討論】　児童養護施設の外来プレイセラピー大学附設相談室における臨床心理実践（その2）		2015年09月19日	日本心理臨床学会第34回秋季大会自主シンポジウム　神戸国際会議場	学会自主シンポジウムにおける事例発表へのコメントを行った。
16.【翻訳】　ヒルガードの心理学　第16版	共	2015年09月	金剛出版 担当　第6章「意識」pp.274-317	Nolen-Hoeksema,Fredrickson,Atkinson, Loftus,Hilgard, Lutz.(2014):Chapter6 Consciousness. Atkinson & Hilgard’s Introduction to Psychology 16th Editionの邦訳。第6章「意識」は，意識と変性意識状態に関する諸理論（意識と無意識，睡眠と夢，瞑想，催眠，精神活性薬）とその最新知見を取り上げている。 監訳者：内田一成、共訳：佐藤淳一，他13人
17.【報告書】今日的な不登校児童生徒への心理臨床的援助に関する研究	単	2015年05月	平成２４～２６年度科学研究費助成事業若手研究（B）研究成果報告書	今日的な不登校児童生徒への心理臨床的援助を検討するため，心理的問題を中核とする不登校事例の先行研究の問題を整理した上で，３つの研究を行った。１）不登校を主訴とする中学生の個人心理面接過程における「重要な出来事」についての質的なメタ分析，２）子どもの問題を主訴とする親面接についての理論的論考，３）不登校を主訴とする子どもを持つ親への心理面接事例についての臨床的考察。
18.【翻訳】　A・ストー（著）『心理面接の教科書―フロイト，ユングの知恵と技から学ぶ』（再掲）	単	2015年02月	創元社	Anthony Storr (1990) The Art of Psychotherapy second edition. New York/Routledgeの邦訳。英国の著名な精神科医・心理療法家のアンソニー・ストーによる，力動的な心理療法の理論と実際について解説した書。精神分析と分析心理学の考えを良書的に統合している。第1部「心理療法の進め方」，第2部「心理療法の技法，関係性」，第三部「患者のパーソナリティ」，第四部「心理療法の治癒，心理療法家のパーソナリティ，趣味」。 監訳者：吉田圭吾；訳：佐藤淳一（全320p）
19.【指定討論】　大学附設相談室における臨床心理実践（その1）－父子並行面接の事例を中心に－		2014年08月23日	日本心理臨床学会第33回秋季大会自主シンポジウム　パシフィコ横浜	学会自主シンポジウムにおける事例発表へのコメントを行った。
20.【書評】　アーネスト・R・ヒルガード著『分割された意識－隠された観察者と新解離説』書評	単	2013年04月	雑誌「図書新聞」3105号，第3面　株式会社図書新聞	米国の高名な実験心理学者ヒルガードが，観察と実験といった科学的手法を用いて解離現象を解明した学術書の書評。心理臨床における解離の説明，現代のこころの特徴，本書の意義について述べた。
21.【翻訳】　ヒルガードの心理学　第15版	共	2012年05月	金剛出版 担当　第6章「意識」pp.286-339	Nolen-Hoeksema,Fredrickson,Loftus,Wagenaar.(2009):Chapter6 ConsciousnessAtkinson & Hilgard’s Introduction to Psychology 15th Edition, Wadsworth Pub Co.の邦訳。豊富な学術的資料で解説した全米で有名な教科書。第6章「意識」は，意識と変性意識状態に関する諸理論（意識と無意識，睡眠と夢，瞑想，催眠，精神活性薬，超常現象）と，その最新知見を取り上げている。 監訳者：内田一成、共訳：佐藤淳一，他13人
22.【報告書】不登校にある児童生徒への臨床心理的援助に関する基礎的研究（Ⅲ）	単	2012年03月	平成２３年度上越教育大学研究プロジェクト（若手研究）終了報告書	国内における1990年代の「不登校」に関する臨床心理学研究（学術論文）を収集し，発表年，名称，研究内容（事例研究と調査研究）の観点から分類した。
23.【報告書】不登校にある児童生徒への臨	単	2011年03月	平成２２年度上越教育大学研究プロ	国内における1980年代の「不登校」に関する臨床心理学研究（学術論文）を収集し，発表年，名称，研究内容（事例研究と調査研究）

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
５．報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
床心理的援助に関する基礎的研究（Ⅱ）			ジェクト（若手研究）終了報告書	の観点から分類した。
24.【報告書】不登校にある児童生徒への臨床心理的援助に関する基礎的研究	単	2010年03月	平成２１年度上越教育大学研究プロジェクト（若手研究）終了報告書	国内における1970年代までの「不登校」に関する臨床心理学研究（学術論文）を収集し，発表年，名称，研究内容（事例研究と調査研究）の観点から分類した。
６．研究費の取得状況				
1.非言語的表現の心理査定に関わる受検者および評価者のパーソナリティ要因の検討―バウム・テストを用いて―	単	2018年10月～2020年3月	平成３０年度日本心理臨床学会助成研究	研究代表者
2.心理査定の印象評価に関わる受検者および評価者のパーソナリティ要因に関する研究	単	2017年6月～2018年3月	平成２９年度武庫川女子大学科学研究費奨励金研究	研究代表者
3.今日的な不登校児童生徒への心理臨床的援助に関する研究	単	2012年4月～2015年3月	平成２４～２６年度科学研究費助成事業若手研究（B）	研究代表者
4.不登校にある児童生徒への臨床心理的援助に関する基礎的研究（Ⅲ）	単	2011年～2012年	平成２３年度上越教育大学研究プロジェクト（若手研究）	研究代表者
5.不登校にある児童生徒への臨床心理的援助に関する基礎的研究（Ⅱ）	単	2010年～2011年	平成２２年度上越教育大学研究プロジェクト（若手研究）	研究代表者
6.不登校にある児童生徒への臨床心理的援助に関する基礎的研究（Ⅰ）	単	2009年～2010年	平成２１年度上越教育大学研究プロジェクト（若手研究）	研究代表者

学会及び社会における活動等	
年月日	事項
1.2017年12月～2022年3月	公益財団法人相談機関非常勤カウンセラー
2.2015年7月～2025年3月	心療内科・精神科クリニック非常勤臨床心理士
3.2014年10月～現在	一般社団法人研究所心理オフィス非常勤カウンセラー
4.2014年～現在	兵庫県臨床心理士会
5.2012年04月～2014年03月	上越教育大学附属中学校非常勤教育相談員
6.2009年04月～2014年03月	新潟県教育委員会スクールカウンセラー
7.2008年04月～2014年03月	新潟県臨床心理士会会員
8.2008年04月～2014年03月	国立大学法人上越教育大学心理教育相談室相談員（兼務）
9.2005年04月～2008年03月	兵庫県臨床心理士会会員
10.2005年03月～2007年03月	児童養護施設非常勤心理療法員
11.2003年10月～2008年03月	神経内科（精神・神経科）クリニック非常勤臨床心理士
12.2003年04月～2008年03月	兵庫県教育委員会スクールカウンセラー
13.2003年～現在まで	日本臨床心理士会会員
14.現在まで	日本心理臨床学会，日本箱庭療法学会，日本精神分析学会，日本心理学会，日本パーソナリティ心理学会，日本ロールシャッハ法学会